

JMP 統計機能リスト

バージョン 6.0

統計機能やその他の機能の五十音順リスト

このリストでは、JMP®の機能を説明します。該当する場合は、機能が使用できるプラットフォームの名前を機能に続けて示しています。最新の機能は太い青字で示しています。

A ~ Z

- ABCD 計画: 配合のスクリーニング計画、[実験計画(DOE)]、[配合計画]
- AIAG ラベル: 変動性図オプション、[変動性図/ゲージチャート]
- AIC (赤池の情報量規準)、[モデルのあてはめ: ステップワイズ法]
- ANCOVA (「共分散分析」を参照)、[モデルのあてはめ]
- ANOVA (「分散分析」を参照)、[二変量の関係]、[モデルのあてはめ]
- ARIMA モデルと季節 ARIMA 予測モデル (「時系列のモデル化と予測」を参照)、[モデル化]> [時系列分析]
- AR 係数プロットと値: 時系列診断のモデル化、[モデル化]> [時系列分析]
- A 効率 (D-最適計画)、[実験計画(DOE)]、[カスタム計画]
- 水準の指定 (多くのプラットフォームのオプション)
- Bartlett の等分散性検定、[二変量の関係: 一元配置]
- Bayes の D-最適計画: [実験計画(DOE)]、[カスタム計画]
- Bayes プロット (Box-Meyer): 回帰モデルの重要な要因のスクリーニング [モデルのあてはめ]
- Box-Behnken 計画: ([実験計画(DOE)]、[応答曲面計画])
- Box-Cox 変換: スクリーニング計画と因子プロファイル、[モデルのあてはめ]
- Box-Jenkins 時系列分析、[モデル化]> [時系列分析]
- Box-Meyer Bayesian 分析 (Bayes プロット): [モデルのあてはめ]
- Box-Wilson 応答曲面計画 ([実験計画(DOE)]、[応答曲面計画])
- Brown-Forsythe 検定 (等分散性)、[二変量の関係: 一元配置]
- By グループ処理: グループ、グラフ、分析ごとの処理を、データを事前に並び替えることをせずに 1 つのウィンドウに表示
- Cook の距離: 影響度を示す統計量、データテーブル内に新しい列を保存、[モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗]
- Cotter 計画: [実験計画(DOE)]、[スクリーニング計画]
- Cox 比例ハザードモデル、[モデルのあてはめ]、[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [比例ハザード]
- Cp: ステップワイズモデルの選択 (Mallows の Cp 規準)、[モデルのあてはめ: ステップワイズ法]
- Cramer von Mises の W 統計量: 一変量分布あてはめのあてはめ統計量の適合度検定、[一変量の分布]
- Cronbach の (有意水準) と標準化: 項目間相関の平均に基づく (項目の信頼性分析)、[多変量]> [多変量の相関]
- Deming 回帰: 「直交回帰」を参照
- **DPU (Defect Per Unit) 分析: グループ間で欠陥率を計算し、比較できる、[グラフ]> [バレット図]**
- DOE: 「実験計画 (DOE)」を参照
- Duncan の多重比較検定: 使用不可、「Tukey-Kramer」を参照
- Dunnett の検定: コントロール群の多重比較検定、「二変量の関係: 一元配置」
- Durbin-Watson 比: 残差の自己相関を検定する、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- D 効率、D-最適計画: [実験計画(DOE)]、[カスタム計画]
- ED50 & LD50: ロジスティック回帰と逆推定の使用による信頼限界付き n パーセント点、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」と「二変量の関係: 二変量」
- E 行列: 多変量モデル、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- Fieller の定理: 逆推定の信頼限界、「モデルのあてはめ」
- Fisher のカッパ() : ホワイトノイズの検定、「スペクトル密度」を参照、[モデル化]> [時系列分析]
- Fisher の正確検定: 2 元分割表、「二変量の関係: カテゴリカル」
- F 検定: あてはめに関するすべての分析に対応
- Gabriel バイプロット: 主成分分析と変数の 3 次元プロット、[回転プロット]
- Gage R&R レポート: 2 因子の交互作用モデル用、[グラフ]> [変動性図/ゲージチャート]
- Greenhouse-Geisser 調整: 多変量モデルのあてはめ調整、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- G-効率 (D-最適計画): [実験計画(DOE)]> [カスタム計画]
- Hoefding の D 統計量: ノンパラメトリック相関係数、[多変量]> [多変量の相関]
- Hotelling-Lawley のトレース: 多変量分散分析の近似 F 検定、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- Hotelling の T2: 「モデルのあてはめ: MANOVA」
- Hsu の MCB 検定: 選ばれた最大または最小のグループに対する多重比較検定、「二変量の関係: 一元配置」
- Huynh-Feldt: 自由度の調整、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- H 行列: 多変量モデル、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- I-最適化基準: [実験計画(DOE)]、[カスタム計画]
- JMP データテーブルの抽出: [抽出(サブセット)]コマンドを使用、またはヒストグラムのバーをダブルクリックする
- JMP データテーブルの列の積み重ね、[列の積み重ね]コマンド
- **JMP テーブルの書き出し (Linux): [名前を付けて保存]で、データをタブ区切りテキストファイル、SAS 移送ファイル、または Open Office スプレッドシートで保存できる**

- JMP テーブルの書き出し(Macintosh): [名前を付けて保存]コマンドで、データをタブ区切りテキストファイル、SAS 移送ファイル、または Excel ファイルで保存できる
- JMP テーブルの書き出し(Windows): [名前を付けて保存]コマンドで、データをタブ区切りテキストファイル、SAS 移送ファイル、SAS データベース、JMP ファイル、Excel ファイル、ODBC 互換パッケージ、および Access ファイルで保存できる
- JMP の自動化:ほとんどの JMP の機能は OLE オートメーションまたは JMP スクリプト言語(JSL)により自動で実行できる
- JSL:JMP スクリプト言語(「分析の再実行」と「スクリプト言語」を参照)
- JSL エディタ:機能強化を継続中

- **Kackar-Harville:混合モデルの標準誤差**
- Kaplan-Meier 生命表分析:[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [生存時間分析/信頼性分析]
- Kendall の順位相関係数(-b):ノンパラメトリック相関係数、[多変量]> [多変量の相関]
- **Kenward-Roger:混合モデルにおける固定効果の検定**
- Kruskal-Wallis 検定:k 標本の平均のノンパラメトリックな検定、「二変量の関係:一元配置」
- KSL(Kolmogorov-Smirnov-Lilliefors)検定:大標本サイズ(n> 2000)の正規分布に対するノンパラメトリックな適合度、小さな標本サイズの Shapiro-Wilk 検定統計量、対数正規、および指数分布、[一変量の分布]
- k-means クラスタ分析:ユーザが指定したクラスタ数を形成する反復処理、オプションのパラレルプロット、[多変量]>[クラスタ分析]
- L18 と L36:[実験計画(DOE)], [スクリーニング計画]
- Lenth の方法、擬似的な標準誤差手法:回帰分析におけるパラメータ推定値の正規分位点に対する直線のあてはめ、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- Levene の検定(等分散性)、「二変量の関係:一元配置」
- **Levey-Jennings 法管理図タイプ、管理図**
- Lilliefors の信頼限界:正規分位点プロット、[一変量の分布]
- Mahalanobis の距離の外れ値プロット:[多変量]> [多変量の相関]
- Mahalanobis の距離の外れ値プロット:点の n 次元重心からの点の距離、[多変量]> [多変量の相関]
- Mahalanobis やジャックナイフ法による距離外れ値:外れ値プロット、[多変量]> [多変量の相関]
- Mallows の Cp 規準:ステップワイズ選択基準、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- Mann-Whitney U 検定:Wilcoxon の 2 標本検定または Kruskal-Wallis k 標本検定と同じ、「二変量の関係:一元配置」
- MANOVA と MANCOVA:多変量分散分析(MANOVA)、多変量共分散分析(MANCOVA)、「モデルのあてはめ:MANOVA」
- Mantel-Haenszel 検定:カテゴリごとの Y 分類変数と X 分類変数の連関の検定、「二変量の関係:カテゴリカル」
- Mauchly の規準:「球面性の検定」を参照
- MCF プロット:平均累計関数、[生存時間分析/信頼性分析]> [再生モデルによる分析]
- M 行列:「モデルのあてはめ:MANOVA」
- O'Brien の検定:等分散性、「二変量の関係:一元配置」
- ODBC(Open DataBase Connectivity)互換:データベースのクエリおよび取り込みを実行する
- Pearson のカイ 2 乗検定:2 元分割表分析、「二変量の関係:カテゴリカル」
- Pearson の相関係数:「二変量の関係:カテゴリカル」と[多変量]> [多変量の相関]
- Pillai のトレース:多変量分散分析(MANOVA)用の近似 F 検定、「モデルのあてはめ:MANOVA」
- Plackett-Burman 2 水準計画:[実験計画(DOE)]> [スクリーニング計画]
- PLS(Partial Least Squares):多数の X により Y を予測、多くの場合、X はオブザベーション数よりも多い、[多変量]> [PLS]
- Poisson 回帰:「一般化線形モデル」を参照
- **Poisson 分布のあてはめ:[一変量の分布]**
- PRESS 統計量:「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」の線形モデルの適合度評価を促進する
- P 管理図:計数値の管理図、[管理図]
- p 値と検出力アニメーション:平均の検定の後にアクセス可能、標本サイズと 水準の変化をアニメーション化、[一変量の分布]
- QQ プロット(正規分位点プロット):正規標準の線と正規性からの偏差をプロットする、[一変量の分布]
- R2 乗統計量:あてはめに関するすべての分析に対応する要約統計量
- REML による推定(制限最尤法):分散成分推定に対応(「混合モデル」を参照)
- Roy の最大根:MANOVA モデルを F 検定で近似する、「モデルのあてはめ:MANOVA」
- SBC(Schwartz's Bayesian Criterion):適合度検定、[モデル化]> [時系列分析]
- Shapiro-Wilk の検定:小さい標本(N< 2000)の正規性を検定するノンパラメトリックな適合度検定。大きい標本には KSL 検定が使用される(「一元分布のあてはめの適合度検定」も参照)、[一変量の分布]
- Shewhart 管理図(「管理図」を参照):品質管理、[管理図]
- SOM:自己組織化マップ、[多変量]> [クラスタ分析]
- Space Filling 計画:確率誤差がない場合に計画を作成する、[実験計画(DOE)], [Space Filling 計画]
- Spearman の順位相関係数():ノンパラメトリックな相関、[多変量]> [多変量の相関]
- Student の t 検定、t 検定:一元配置の分散分析(グループのすべてのペアの多重比較)、「二変量の関係:二変量」
- Tobit モデル:適切な損失関数を使用した非線形回帰(「損失関数テンプレート」も参照)、[モデル化]> [非線形回帰]
- Tukey-Kramer の HSD 検定:一元配置の分散分析の各グループのペアごとに多重比較を実行、「二変量の関係:一元配置」
- t 検定:1 標本の平均の検定、分散が等しい 2 標本、分散が等しくない 2 標本、対応のあるペア、パラメータ推定値(あてはまる場合)、[一変量の分布]と「二変量の関係:二変量」
- UWMA 管理図:標本平均の小さなシフトを検出、品質管理、[管理図]

- Van der Waerden の検定: 標本が等しい平均を持つノンパラメトリックな検定、「二変量の関係:一元配置」
- V マスク:「累積和プロット」を参照、[管理図]
- Wald のカイ 2 乗検定:ロジスティック回帰、「二変量の関係:ロジスティック」
- Weibull のあてはめ:Weibull の 2 または 3 パラメータ Weibull 分布をデータにあてはめる、[一変量の分布]
- Weibull 生存曲線:[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [生存時間(パラメトリック)のあてはめ]
- Weibull 分析:適切な損失関数を使用した非線形回帰(「損失関数テンプレート」も参照)、[モデル化]> [非線形回帰]
- Welch の分散分析:分散の不均一性がある場合の一元配置の分散分析、「二変量の関係:一元配置」
- Western Electric Rules (アメリカ西海岸電子工業地域ルール)(特殊原因のテスト):品質管理、[管理図]
- Wilcoxon の検定:生存時間分析、[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [生存時間分析/信頼性分析]
- Wilcoxon の順位和:Mann-Whitney と同等の 2 標本順位検定(k 標本の「Kruskal-Wallis 検定」も参照)、「二変量の関係:一元配置」
- Wilcoxon の符号付順位検定:対応のあるペアにおける平均のノンパラメトリックな順位検定、2 つの列の差がゼロであることを検定する、[一変量の分布]と[対応のあるペア]
- Wilk のラムダ:多変量分散分析の近似 F 検定、「モデルのあてはめ:多変量」
- Winters 法による時系列診断:(「時系列のモデル化」を参照)
- z 検定:1 つの平均を値と比較する、[一変量の分布]

あ行

- あてはまりの悪さ(LOF)検定:線形モデル用(該当する場合)
- あてはめたモデルのシミュレーション:プロファイル
- あてはめの手法:標準的な最小 2 乗法、ステップワイズ法、MANOVA、対数線形-分散、名義ロジスティック、順序ロジスティック、比例ハザード、生存時間(パラメトリック)、「モデルのあてはめ」
- 予め集計管理図
- 石川チャート:[特性要因図]
- **移動範囲のグループ平均(中央値を使用):「管理図」を参照**
- 移動平均管理図:UWMA と EWMA、[管理図]
- 一変量分布のあてはめの適合度検定:正規:Shapiro-Wilk 検定と KSL 検定、対数正規と指数:KSL 検定、Weibull、と関連つき Weibull:Cramer-von Mises W 検定[一変量の分布]
- 一部実施要因計画:DOE、カスタム計画、およびスクリーニング計画
- 一変量反復測定:球面性の検定と自由度調整(Greenhouse-Geisser 調整と Huynh-Feldt 調整)を使用、「モデルのあてはめ:MANOVA」
- 一様:Space Filling 計画([実験計画(DOE)])を作成する手法、[Space Filling 計画]
- 一様加重移動平均管理図:UWMA 管理図
- 一様精度計画:[実験計画(DOE)], [応答曲面計画]
- **一般化線形モデル:種々のリンク関数による Poisson、2 項、正規、および指数分布の回帰分析、過分散調整尤度比検定と信頼区間にも対応している**
- 因子分析:little jiffy 手法(Kaiser)、「回転プロット」と「多変量」> 「多変量の相関」プラットフォーム
- ウェストガードルール(特殊原因のテスト):品質管理、[管理図]
- 打ち切りデータ:右と左の打ち切り、任意の打ち切り、生存時間分析、非線形回帰のあてはめ、[生存時間分析もしくは信頼性分析]、[モデル化]> [非線形回帰]
- 影響度を示す統計量:Cook の D 回帰診断、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 枝分かかれ計画の分析:「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 円グラフ:[チャート]のオプション
- 応答曲面計画:[実験計画(DOE)], [応答曲面計画]
- 応答曲面モデル分析:等高線プロット、最適解(臨界値)と固有構造による分析、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- オッズ比:「ロジスティック回帰」を参照
- 折れ線:単一プロットや重ね合わせプロット、接続点または未接続点、垂線プロット、線形または対数、[チャート]

か行

- カーネル平滑化:散布図に対する二変量のノンパラメトリック密度等高線、「二変量の関係:二変量」
- カイ 2 乗検定:一般的なカテゴリカル応答モデル、Wald と尤度比検定、[モデルのあてはめ]
- カイ 2 乗検定:分布のあてはめ、[一変量の分布]
- カイ 2 乗ノンパラメトリック検定:Wilcoxon、中央値(メディアン)、Van der Waerden、[二変量の関係:一元配置]
- カイ 2 乗統計量:尤度比検定、Pearson の 2 元集計表、「二変量の関係:カテゴリカル」
- 回帰:直線、多重、ANOVA、MANOVA、MANCOVA、非線形、多項式、比例ハザード(Box モデル)、ロジスティック、応答曲面、直交(測定誤差)、ステップワイズ、対応のあるペア、対数線形-分散モデル、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 回帰直線:「二変量の関係:二変量」
- 回帰直線と曲線のあてはめ:直線、信頼限界のある多項式、スプライン曲線、確率楕円、値ごとのあてはめ、直交のあてはめ、その他のあてはめ、X 変数と Y 変数のいずれかまたは両方の変換、「二変量の関係:二変量」
- 階層型クラスター分析、[多変量]> [クラスター分析]

- 階層化チャート: 特性要因図
- 回転プロット: 点の3次元回転、[回転プロット]
- 拡大と縮小: 虫めがねツールを使用してプロットのサブセットを拡大または縮小します。
- 拡張計画: 反復、中心点または軸点の追加、折り重ね計画、[実験計画(DOE)]、[拡張計画]
- 確率楕円(多変量)、散布図行列: 関連の視覚化、[多変量]>[多変量の相関]
- 重ね合わせプロット: 折れ線と棒、二重 Y 軸、x の関数として y をプロット、[重ね合わせプロット]
- カスタム計画: 標準および非標準状況に対するカスタム計画の作成、[実験計画(DOE)]、[カスタム計画]
- カスタム検定: 一般線形モデルで独自の仮説を設定する「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- カスタム損失関数: 非線形回帰の最尤法による推定、[モデル化]> [非線形回帰]
- 加速故障: 生存時間(パラメトリック)モデル、[モデルのあてはめ]> [生存時間(パラメトリック)]
- カッパ()統計量、Fisher: 「Fisher のカッパ()統計量」を参照
- カッパ統計量: 両方の変数で共通の水準がある場合の二元集計表の一致性統計量、「二変量の関係: カテゴリカル」
- カテゴリカルなモデルのあてはめ: 名義尺度または順序尺度の応答、対数尤度カイ 2 乗の分析、[モデルのあてはめ]
- カテゴリカル分析、2 元配置: 2 つのカテゴリカル変数の分割表、度数、全体、行、列、期待値、偏差、およびセル Chisq を含む 2 元度数表、「二変量の関係: カテゴリカル」
- 頑健性のある回帰分析(ロバスト回帰): 「反復重み付き最小 2 乗法」を参照
- 慣性: 対応分析数量、二変量の関係のカテゴリカル分析
- 完全実施要因計画: [実験計画(DOE)]、[完全実施要因計画]
- 幹葉図: [一変量の分布]
- 管理図: Shewhart 管理図(平均、R、S、および個々の測定値に対する管理図)、UWMA と EWMA 移動平均管理図、V マスクによる Cusum(累積和)管理図、計数値データの管理図、P、NP、C、および U 管理図、予め集計、ランチャート、Levey-Jennings 法、管理図
- 管理図: 積み重ねまたは重ね合わせ、棒、線、垂線、水平、垂直、円グラフ、標準誤差バーによる平均
- ガンマあてはめ(「分布のあてはめ」を参照)
- 期待平均平方(EMS): 「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 逆推定(較正): 応答 Y の X を推定、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 球の詰め込み: Space Filling 計画([実験計画(DOE)])を作成する方法、[Space Filling 計画]
- 球面性の検定: 一変量の反復測定検定、Mauchly の規準を使用する、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- キュープロット: [実験計画(DOE)]> [スクリーニング計画]
- 行交換アルゴリズム: これにより、実験計画(DOE)でランダムな最初の計画が改善される、[カスタム計画]
- リアルタイムのデータ取得: 「カスタム JSL スクリプト」を参照
- 競合リスク分析、競合原因分析、または再生モデルによる分析: [生存時間分析もしくは信頼性分析]
- 共線性: 他の因子の線形結合である場合にこのプロットを表示する、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 共分散: 共分散行列、[多変量]> [多変量の相関]
- 共分散分析: 同じ傾き、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 共分散分析: 異なる傾き、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 行列代数: スクリプト言語(JSL)で使用可能
- 曲線のあてはめ: 直線、多項式、スプライン、および確率楕円の二変量のあてはめ、非線形回帰のあてはめの曲線、ヒストグラムの滑らかな曲線のあてはめ、ヒストグラムの分布のあてはめ、「二変量の関係: 二変量」
- 極値分布のあてはめ: 損失関数による非線形回帰、[モデル化]> [非線形回帰]
- 曲面プロット: 3 次元の曲面、回転、方向ライト、可変メッシュ、カラーを表示できる「グラフ」メニュープラットフォーム、**4 種類の面(ISO 面、密度面キーボードショートカット、残差、バックグラウンド回転)の重ね合わせ**、[曲面プロット]
- 許容区間: 片側検定と両側検定、[一変量の分布]
- クラスタ分析: 階層型、k-means、正規混合分布クラスター、等比スケール、カラーマップ、樹形図、自己組織化マップ(SOMS: Self Organizing Maps)、クラスター階層の保存、k-means クラスターのパイプロット、[多変量]> [クラスタ分析]
- グループごとの X 変数と Y 変数に対する Cochran-Mantel-Haenszel の連関検定、「二変量の関係: カテゴリカル」
- グループごとの平均: [グループ化]/[要約]コマンドを使用するデータテーブル
- グループ変数オプション: 様々なプラットフォームで使用可能
- クロス集計: 「カテゴリカル分析」、「二元配置」を参照
- 群平均法: クラスタ法、[多変量]> [クラスタ分析]
- 計画のレゾリューション: [実験計画(DOE)]> [スクリーニング計画]
- 計算: (計算式エディタ)
- 計数値管理図: P、NP、C、および U 管理図、[管理図]
- 計数値の NP 管理図: 品質管理、[管理図]
- 計数値の U 管理図: 品質管理、[管理図]
- 計数値用ゲージチャート
- 結合(マージ): テーブルを横に結合、主要フィールド別に結合、直積結合(テーブル 1 の全レベルをテーブル 2 の全レベルと結合)、[テーブル]メニュー
- **欠測値パターン表示: 欠測値パターン表示の JMP データテーブルを作成するテーブルメニューコマンド**
- 原因と結果のダイヤグラム(「ダイヤグラム」を参照)
- 検出力の分析(事後): 「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」のパラメータ推定値のオプション
- 検出力の分析(事前): 1 標本、2 標本、k 標本、1 標本分散、1 標本割合と 2 標本割合、ユニットあたり度数の検出力の計算、シグマクオリティの水準の計算、[標本サイズ/検出力]([実験計画(DOE)]メニュー)

- 効果と交互作用のプロファイルプロット:「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 合計に占める比率(全体に対する%):[グループ化]/[要約]コマンドにより生成されたテーブルの列、[チャート]のオプション
- 交互作用の検定:輪切り検定(単純主効果検定)は一度に複数の主要効果と交互作用を検定する、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 交互作用プロット:2因子間交互作用の交互作用プロットの行列、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 交互作用プロット行列:DOEの2因子間交互作用の行列、[スクリーニング計画]
- 格子配合計画:[実験計画(DOE)],[配合計画]
- 較正(Calibration):「逆推定」と「直交回帰」を参照
- 工程シグマ(シグマクオリティ):[一変量の分布]のレポート機能に含まれる
- 工程能力分析:長期・短期指数、100分の1や100万分の1(PPM)単位の限界外表示、管理図、ヒストグラム、分位点プロット、1つまたは複数のsの推定値(固定のサイズでグループ化された長期、指定、短期、列でグループ化された短期)、シグマクオリティ(工程シグマともいう)をレポートの非表示列として含む、[一変量の分布]
- 項目分析:項目反応理論(IRT)によるテスト得点分析、[多変量]> [IRT]
- 交絡:実験計画(DOE)交絡関係レポート、[スクリーニング計画]
- 交絡:モデルの項が実験計画(DOE)で線形関係にあるかどうかを示す、[モデルのあてはめ]の特異性の詳細テーブル
- 交絡関係構造テーブル:交絡パターンを表示する
- **交絡行列:モデルに含まれていない2因子間交互作用のバイアスを表示する、[実験計画(DOE)],[カスタム計画]**
- 個々の値の標準誤差:新しいデータテーブルの列として保存、「二変量の関係:二変量」
- 個々の測定値:管理図
- 誤差の標準偏差(RMSE):あてはめに関するすべての分析に対応
- 故障率プロット分析:一変量生存時間分析、[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [生存時間分析/信頼性分析]
- 固有値、固有ベクトル:「モデルのあてはめ:標準最小2乗」、応答曲面分析
- 混合水準計画:[実験計画(DOE)],[カスタム計画]
- 混合モデル:完全にランダムなブロックと不完全ブロック計画、分割、ストリップ、および分割-ストリッププロット計画、反復測定計画、変量効果モデルなどがあり、REMLによる推定、およびKenward-Roger固定効果検定を使用する、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」

さ行

- 最小2乗平均:ANOVA効果の検定、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 最小2乗法によるあてはめ:すべての線形モデルの標準的なあてはめ手法
- **最小2乗法によるあてはめ:[分析]> [モデル化]> [非線形回帰]**
- **最小ポテンシャル:球形 Space Filling 計画、[実験計画(DOE)]**
- 最小有意差(LSD):多重比較検定表における与えられたp値の有意な平均の差、「二変量の関係:一元配置」
- 最小有意数(LSN):検出力計算結果に示される標本サイズ決定、[標本サイズ/検出力]([実験計画(DOE)]メニュー)
- 最小有意値(LSV):検出力計算結果に表示されるパラメータの値 [標本サイズ/検出力]([実験計画(DOE)]メニュー)
- 再生モデルによる分析:MCF(平均累計関数)プロットとイベントプロットとして多重再生データを分析する、[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [再生モデルによる分析]
- 最大R2乗:あてはまりの悪さ(LOF)検定で最大可能R2乗を示す、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 最長距離法:[多変量]> [クラスター分析]
- 最尤法:非線形回帰、損失関数は負の尤度、「モデルのあてはめ:MANOVA」
- 座標交換アルゴリズム:カスタムD-最適計画、[実験計画(DOE)],[カスタム計画]
- 三角図:3つの独立変数に対して4つ目の変数の点と等高線をプロットする、[三角図]
- 残差:新しいデータテーブル列として保存される
- 残差の標準誤差:新しいデータテーブルの列として保存、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 残差と予測値のプロット:「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 残差プロット:[モデル化]> [時系列分析]
- 3次元回転プロット:クラスター、パターン、外れ値がある点の探索、[回転プロット]
- 散布図行列:変数のすべてのペアの確率楕円付き散布図をプロット、[多変量]> [多変量の相関]
- 散布図:二変量の関係プロット、「二変量の関係:二変量」または[重ね合わせプロット]
- 軸スケール:中心複合計画用のオプション、[実験計画(DOE)],[応答曲面計]
- 軸スケール:ほとんどのプロットのX軸とY軸のスケールを設定するオプション
- 軸点:応答曲面計画または拡張計画、[実験計画(DOE)],[応答曲面計画]
- 時系列の移動平均分析:「時系列のモデル化」と「予測」を参照
- 時系列のモデル化と予測:予測値による時系列プロット、残差プロット、診断チャート、差分、ARIMAモデル、季節ARIMAモデル、平滑化モデル(単、二重、線形、ダンプトレンド線形、季節)、Winters法、[モデル化]> [時系列分析]
- 自己相関:自己相関のDurbin-Watson比、「モデルのあてはめ:標準最小2乗」
- 自己相関プロットと値:時系列のモデル化の診断、[モデル化]> [時系列分析]
- 事後比較:「多重比較」を参照
- 指数生存曲線分析(「生存時間分析」を参照)
- 指数探索プロット:生存時間分析もしくは信頼性分析
- 指数のあてはめ:分布のあてはめ、[一変量の分布]
- 指数平滑化時系列分析予測:[モデル化]> [時系列分析]
- 指数モデルのあてはめ:損失関数による非線形回帰、[モデル化]> [非線形回帰]

- 実験計画 (DOE) : ほとんどあらゆる状況に対応する実験計画を構築するコマンド
- 実験計画 (DOE) の過飽和実験計画: モデル項の数よりも実験回数が少ない場合に使用される、[カスタム計画]
- 実験順序のランダム化: [実験計画(DOE)] > [カスタム計画] で使用可能
- 実施要因計画: 一部実施要因、完全実施要因、ブロック因子、[完全実施要因計画]
- **自動入力(オートフィル) データテーブル(定数、パターン、または乱数データ)**
- 自動微分計算(計算式表示): 非線形回帰、[モデル化] > [非線形回帰]
- ジャーナル: JMP での分析を編集可能ウィンドウにキャプチャする
- 尺度: 分析方法を定義する変数の尺度(名義、順序、連続)です。
- 尺度化したパラメータ推定値: 実験計画や重回帰に対応、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- ジャックナイフ法による Mahalanobis の距離: 外れ値プロット、[多変量] > [多変量の相関]
- 重回帰: 「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 重心プロット: 「モデルのあてはめ: MANOVA」
- 重心法: [多変量] > [クラスター分析]
- 樹形図: クラスター図、[多変量] > [クラスター分析]
- 主成分分析: [回転プロット] と [多変量] > [多変量の相関]
- 出力とクリップボードの形式: テキスト(RTF、HTML)、Windows のグラフィックス(WMF、EMF、JPEG、PNG、PICT)、Macintosh のグラフィックス(PICT、JPEG、PNG (Quickload® 4.1 以上が必要))
- 順位検定: 「ノンパラメトリックな適合度検定」を参照
- 順序ロジスティック回帰: [二変量の関係] または [モデルのあてはめ]
- 仕様限界、工程能力指数: [一変量の分布] の品質管理機能
- 信頼曲線: 回帰のあてはめの散布図上(個別および平均)に表示、オプションで 水準を指定、「二変量の関係: 二変量」
- 信頼限界、個別および平均: 逆推定、非線形回帰のあてはめを行うため、平均および標準偏差をデータテーブル内に新しい列として保存する
- 信頼性分析: 「生存時間分析」を参照
- 垂線プロット: 線を X 軸から点への垂線で置き換えた折れ線、[管理図]
- 垂線平均管理図: Xbar(平均)管理図、[管理図]
- 推定値の標準誤差: 該当する場合
- スクリーニング計画: [実験計画(DOE)] > [スクリーニング計画]
- **スクリーンプロット: 順に並べた固有値を固有値の指数関数として表示する、[多変量] > [多変量の相関]**
- スクリプト言語: JSL、タスクを記録、繰り返し、プログラム、自動化、およびカスタマイズできる。行列代数の実行、グラフのアニメーション化、シミュレーションや複雑な操作の書き込みなどを行うコマンドも備えた広範なスクリプト言語。 **JMPversion() コマンド、enhanced show tree structure () コマンド**
- スチューデント化された残差: 計算して新しいデータテーブルの列として保存、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- スチューデント化された残差: 新しいデータテーブル列として保存される
- ステップチャート: ステッププロット、時系列内の点をステップとして接続、[重ね合わせプロット]
- ステップワイズ回帰: すべての回帰モデル、「モデルのあてはめ: ステップワイズ法」プラットフォームおよび [多変量] > [判別分析]
- スプライン曲線: 平滑化パラメータ(ラムダ)を指定する、「二変量の関係: 二変量」
- スペクトル密度プロット: スペクトル密度 周期または周波数、Fisher のカッパ() によるホワイトノイズの検定、[モデル化] > [時系列分析]
- すべての回帰モデル: 「モデルのあてはめ: ステップワイズ法」
- **3D シーン JSL コマンド: ユーザー独自の 3D シーンを構築する、新しく追加したテキスト関数の引数 Billboard, Blendfunc コマンド、Pick コマンド**
- 正規曲線: 分布のあてはめ、[一変量の分布]
- **正規混合分布法: ロバストな(頑健な)、対角または完全共分散**
- 正規性検定: Shapiro-Wilk 検定、KSL 検定、[一変量の分布]
- 正規プロット: パラメータ推定値の正規分位点をプロット、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 正規分位点プロット(QQ プロット): 正規標準偏差線と正規分布からの偏りをプロット、[一変量の分布]
- 正準重心プロット: グループを最もよく判別する点と多変量平均を 2 次元上に表示する、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- 正準相関: データテーブル内の新しい列として正準 Y を保存する、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- 生存時間分析もしくは信頼性分析: 積-極限法(Kaplan-Meier)生存率の推定、比例ハザード、(Cox モデル)回帰、生存時間モデル(例、指数、極値、対数正規と Weibull の推定)、競合原因分析(「再生モデルによる分析」も参照)、Weibayes、時間による生存率、確率密度、ハザードのプロット、故障率プロット、[生存時間分析もしくは信頼性分析] > [生存時間分析/信頼性分析]
- 成分の回転: 主成分分析の直交または斜交回転、[回転プロット] または [多変量] > [多変量の相関]
- 生命表(積-極限法または Kaplan-Meier 法): [生存時間分析もしくは信頼性分析] > [生存時間分析/信頼性分析]
- 生命表(保険数理)テンプレート: サンプルデータライブラリに含まれている
- 積率生命表: 積-極限(Kaplan-Meier)法による生存期間分析、一変量生存時間分析も含む、[生存時間分析もしくは信頼性分析] > [生存時間分析/信頼性分析]
- 接続レポート(多重比較結果の表示)、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 設定を記録: [実験計画(DOE)]、予測プロファイルのオプションで、応答や満足度を保存し、種々の設定間の差異をレポートする、[カスタム計画]
- 切片なしのモデル: 配合モデル分析、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- セルプロット: データテーブルを色のついた四角いセルの行列として表示、[セルプロット]
- 尖度: [一変量の分布]

- 相関: 確率楕円とレポートによる二変量の散布図、「二変量の関係: 二変量」
- 相関: 多数の変数、有意確率、相関のヒストグラム (Pearson の相関係数 (r), Spearman の順位相関係数 (), Kendall の順位相関係数 (), Hoeffding の D 統計量) によるペアごとのレポート、相関の逆行列、偏自己相関、確率楕円による散布図行列、[多変量]> [多変量]
- 相関係数の逆行列: [多変量]> [多変量の相関]
- ゾーンの線: 管理図のゾーン、特殊原因テストで使用 ('Western Electric Rules (アメリカ西海岸電子工業地域ルール)') を参照
- 測定誤差 ('直交回帰' を参照)
- 測定の回帰: 直交回帰
- 損失関数テンプレート: 指数、極値、対数ロジスティック、対数正規、正規、Tobit、および Weibull 分布で打ち切りのデータがあるときに使用

た行

- 対応のあるペア分析: 2 回の反復測定による対応のあるデータの t 検定とグループ化データ、[対応のあるペア]
- 対応分析: 2 元度数分割でパターンが似ている行と列を示すカテゴリカルなモデルのグラフ、「二変量の関係: カテゴリカル」
- 対数軸: 重ね合わせプロットと二変量の関係プロット
- 対数正規生存曲線分析: [生存時間分析もしくは信頼性分析]> [生存時間分析/信頼性分析]
- 対数正規のあてはめ: 「分布のあてはめ」を参照
- 対数尤度の分析、尤度比検定: カテゴリカルなモデルがどれほどあてはまっているかを調べる尤度比カイ 2 乗の検定、「二変量の関係: カテゴリカル」、「モデルのあてはめ: 名義尺度」または「モデルのあてはめ: 順序ロジスティック」
- 対比: 一般線形モデルにおいて、パラメータの線形結合を検定する、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- タイプ 1 SS (逐次平方和): 一般線形モデル、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 対話的パーティショニング: 「パーティション」を参照
- 楕円: 二変量の密度、[二変量の関係]と[多変量]> [多変量の相関]
- 多重共線性: 「共線性」を参照
- タグチ計画の作成: [実験計画(DOE)], 「タグチ計画」
- 多元配置の最小 2 乗平均比較: Tukey の HSD 検定による多重比較および Student の t 検定によるペアごとの比較、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 多項式曲線のあてはめ: 多項式回帰、「二変量の関係: 二変量」
- 多重比較: 一元配置 ANOVA、Student の t 検定、Tukey-Kramer、Dunnnett の検定、Hsu の MCB 検定、「二変量の関係: 一元配置」
- **多変量管理図: 「多変量」**
- 多変量検定: Wilks のラムダ (), Pillai のトレース、Hotelling-Lawley のトレース、Roy の最大根、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- 多変量の方法: MANOVA モデル、3 次元回転プロット、主成分分析、パイプロット、判別分析、正準相関、クラスター分析、項目分析、Little Jiffy 因子分析、多変量箱ひげ図、PLS (Partial Least Squares)
- 単体格子計画: [実験計画(DOE)], [配合計画]
- 単体重心計画: [実験計画(DOE)], [配合計画]
- 端点計画: DOE、範囲と線形制約、JSL による一般制約、[配合計画]
- 逐次平方和 (タイプ 1 SS): [モデルのあてはめ]
- **グループ間およびグループ内 ('予め集計管理図' を参照)**
- 中央値 (メジアン): [一変量の分布] の分位点、および [グループ化] / [要約] コマンドからのデータテーブル列として表示、「二変量の関係: 一元配置」の [箱ひげ図] に示される
- 中央値 (メジアン) と全体に対する % 要約検定: [グループ化] / [要約] コマンドにより作成された JMP テーブルで示される
- 中心複合計画、[実験計画(DOE)], [応答曲面計画]
- 調整済み平均 ('最小 2 乗平均' を参照)
- 調整平均: 「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 直線性: 直線性のグラフを作成し、変動性図でバイアスの直線性を要約する、[変動性図 / ゲージチャート]
- 直交 t 検定: 独立していて、同一の分布に従うように変換したパラメータ推定値を検定、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 直交回帰: X と Y の変動性に対して調整された線、「二変量の関係: 二変量」
- 直交計画: [実験計画(DOE)], [スクリーニング計画], [応答曲面計画]
- 直交配列: [実験計画(DOE)], [スクリーニング計画], [タグチ計画]
- 追加変数プロット ('てこ比プロット' を参照)
- ディジジョンツリー (決定木): 「パーティション」を参照
- データの読み込み (Linux): JMP データテーブル、JMP ジャーナル、JSL スクリプト、JMP レポート、テキストファイル、Open Office スプレッドシートファイルの [開く] コマンド、Web サイトからファイルをダウンロードし、UNIX ODBC ドライバを備えた任意のデータベースを開くことができる
- データの読み込み (Macintosh): JMP データテーブル、JMP ジャーナル、JSL スクリプト、FACS ファイル、Excel ファイル、テキストファイル、SAS 移送ファイル、および SAS データセットの [開く] コマンド
- データの読み込み (Windows): JMP テーブル、JMP ジャーナル、JSL スクリプト、SAS データセット、SAS 移送ファイル、自動形式判定、Microsoft® Excel と Microsoft® Access ファイル、dBase® ファイル、FoxPro® ファイル、および他の ODBC サポートデータベース ('ODBC' も参照) の [開く] コマンド、Web サイトからのファイルのダウンロード
- データの標準化: 標準化された値を新しいデータテーブルの列として保存、[一変量の分布]
- データ入力: データのキー入力、クリップボードからコピー、データの読み込み、他のデータベースへのアクセス
- テーブルの編集: 標準の [編集] メニューコマンド
- 適合度検定: 比率に基づくカイ 2 乗統計量、「あてはまりの悪さ (LOF) 検定」を参照

- てこ比プロット:部分 F 検定の効果検定グラフ、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 転置: JMP データテーブルの行と列を相互に交換、By グループのオプション、[転置]コマンド
- テンプレート: サンプルライブラリに保存されているデータテーブルで、一般的に必要とされる式とともに保存されている
- 統計グラフのアニメーション: JSL アプリケーション(「スクリプト言語」および一部の組み込みスクリプトを参照)
- 統計的品質管理 (SQC): 「管理図」を参照
- 統計量の要約テーブル: あてはめに関するすべての分析に対応、[グループ化]/[要約]コマンドの結果
- 等高線図: 二次元密度推定の等確率等高線、「二変量の関係:二変量」
- 等高線図: ラベル、凡例、塗りつぶし、三角図内の予測値、応答曲面モデル効果を含む等高線、[等高線図]
- 等高線プロファイル(重ね合わせ等高線プロット): 「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」、[グラフ]> [等高線プロファイル]
- 等分散性: O'Brien, Brown-Forsythe, Levene, および Bartlett の検定、「二変量の関係:一元配置」
- 等分散性: 一元配置の分散分析でグループ分散が同じかどうかを検定する(「Welch の一元配置」、および O'Brien, Brown-Forsythe, Levene, Bartlett の等分散性の検定も参照)、「二変量の関係:一元配置」
- 特殊原因のテスト(Western Electric Rules(アメリカ西海岸電子工業地域ルール)、ウェストガードルール): 品質管理、「管理図」プラットフォーム、[管理図]
- 特性要因図: 石川チャート、フィッシュボーンチャート、原因と結果のダイアグラムを作成、[特性要因図]
- 独立性の検定: 2 元度数分割表分析、Pearson と尤度比検定、「二変量の関係:カテゴリカル」
- 度数: カイ 2 乗検定による一元および二元配置クロス集計テーブル、[一変量の分布]と「二変量の関係:カテゴリカル」
- 度数: [テーブル]> [グループ化]/[要約]コマンドにより生成されるデータテーブルの列

な行

- ナビゲーション: 初心者ユーザは JMP スターターを使用して分析とグラフ作成に適したプラットフォームを簡単に見つけて起動できる
- 並べ替え: 1 つまたは複数の列により JMP データテーブルを並べ替える、昇順または降順
- **二項分布のあてはめ: [一変量の分布]**
- 2 変数の確率楕円: 相関の視覚化、「二変量の関係:二変量」
- 二変量のあてはめ: 平均、直線、多項式、変換した値、スプライン、確率楕円、直交、その他(回帰直線と曲線)のあてはめ、[二変量の関係]
- ニューラルネットワーク: 対話式交差検証を用い、隠れ層を 1 つ使用するニューラルネットワークモデル、[モデル化]>[ニューラルネットワーク]
- ノンパラメトリックな一元配置の分散分析と平均検定: Kruksal-Wallis(Wilcoxon)、中央値(メディアン)、Van der Waerden の順位検定、「二変量の関係:一元配置」
- ノンパラメトリックな適合度検定: KSL, Shapiro-Wilk 検定と Cramer-von Mises の W 検定、分布のあてはめの検定、[一変量の分布]
- ノンパラメトリックな密度平滑化: 二変量の密度の密度推定、「二変量の関係:二変量」
- ノンパラメトリック相関係数: Kendall の順位相関係数(), Spearman の順位相関係数(), Hoeffding の D 統計量、[多変量]> [多変量の相関]

は行

- パーセントプロファイル: [一変量の分布]と「二変量の関係:カテゴリカル」
- パーティション: (CARTTM, CHAIDTM, C4.5, C5)、再帰的にデータを分岐(パーティション)して応答を推定する、パーティションのツリーを作成する、[モデル化]> [パーティション]
- バイアスレポート: [変動性図/ゲージチャート]
- 配合計画: [実験計画(DOE)], [配合計画]、[カスタム計画]
- バイナリ(2水準)ロジスティック回帰の ROC(受診者動作特性)曲線: 真陽性率と偽陽性率をプロット、「二変量の関係:ロジスティック」
- バイプロット(Gabriel): 主成分分析と変数の 3 次元プロット、[K Means クラスタ分析]、[回転プロット]、[多変量]> [クラスタ分析]
- 箱ひげ図: 各分布(「分位点の箱ひげ図」と「外れ値(箱とひげ)の箱ひげ図」を参照)、[一変量の分布]
- 箱ひげ図オプション: 平均の標本分布を表示、「二変量の関係:一元配置」
- 箱ひげ図(箱とひげ): [一変量の分布]
- 外れ値の箱ひげ図: [一変量の分布]
- 外れ点: 外れ値の箱ひげ図、[一変量の分布]
- バックプロバゲーション: [モデル化]>[ニューラルネットワーク]
- パラメータ推定値: 「t 検定」を含め、すべてのモデルで与えられる
- パラメータ推定値の最小 2 乗法オプション: 推定値、推定値の標準誤差、t 値、有意確率(p 値)、95%信頼限界、標準のベータ分布と相関の逆行行列の対角要素(VIF: Variance Inflation Factors と同じ)
- パラレルプロット: [グラフ]メニューの 1 つで、データテーブルの各行の応答変数をすべて、直線のセグメントでつなげた 1 本の線として表したものの、[パラレルプロット]
- パラレルプロット: K-Means クラスタレポートのオプション、[多変量]> [クラスタ分析]
- バリオグラム: 時系列のモデル化の診断、[モデル化]> [時系列分析]
- バリマックス回転: 成分の回転、[回転プロット]
- パレート図: スクリーニング計画モデルにおける要因、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- パレート図: 一般、1 元層別ヒストグラム、2 元層別ヒストグラム、[パレート図]
- 反復重み付き最小 2 乗法 (IRLS): 非線形回帰、[モデル化]> [非線形回帰]

- 反復測定分析: 球面性の検定と自由度に対する 2 種類の調整 (Greenhouse-Geisser 調整と Huynh-Feldt 調整) による一変量 (混合モデル) 検定、「モデルのあてはめ: MANOVA」
- 判別分析: 判別スコアの計算、点の分類、判別スコアの保存、オプションのステップワイズ選択、正準プロット、[多変量]> [判別分析]
- ヒートマップ(「セルプロット」を参照)
- 比較円: 一元配置の多重比較をグラフィカルに表示する、「二変量の関係」「一元配置」
- ヒストグラム: データテーブルへのリンク、要約統計量、モーメント法のレポート、度数軸、割合軸、誤差バー、バーの度数とパーセント表示、[一変量の分布]
- ヒストグラム軸: 「二変量の関係: 二変量」のオプション
- **非線形計画: 非線形モデルの実験計画 (DOE)、[実験計画 (DOE)]> [非線形計画]**
- 左側打ち切り生存時間モデル(「Tobit モデル」を参照)
- 微分: 非線形回帰、[モデル化]> [非線形回帰]
- 標準偏差: [一変量の分布]における標準偏差の推定値と信頼区間
- 標準偏差の検定 (指定した値に対して): 片側と両側のカイ 2 乗検定、[一変量の分布]
- **表の作成: カスタマイズされたテーブル形式で要約データを表すためのプラットフォーム、ドラッグアンドドロップインターフェースを備えている**
- 標本サイズ計算 (LSN): 検出力の計算テーブルに表示される(「検出力の分析」を参照)
- 比例ハザード (Cox) モデル: セミパラメトリックな回帰モデル、[生存時間分析もしくは信頼性分析]> [比例ハザード]
- 品質改善: 「管理図」、「工程能力指数」、「パレート図」、「変動性図 (Gage R& R プロット)」を参照
- フィッシュボーンチャート: 特性要因図
- **フェーズを指定した管理図**
- 不確定性: 全体対数尤度として測定される
- 符号付順位検定: 平均の 1 標本検定のノンパラメトリックな検定、[一変量の分布]
- **プロット: 同一プロット内の異なる Y の重ね合わせを可能にする連続尺度データの x-y プロット**
- **プロビット回帰: 「一般化線形モデル」を参照**
- プロビットモデル: カテゴリカルな応答、「モデルのあてはめ: 名義ロジスティック」または「モデルのあてはめ: 順序ロジスティック」、または[モデル化]> [非線形回帰]
- プロファイル: 独立した効果の組み合わせごとに予測応答 Y の表示、満足度関数プロファイルの表示、配合計画分析での制約の使用、および満足度の機能の最適化などを実行する、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- プロファイル尤度信頼限界: 尤度関数での変化に対応するパラメータの信頼区間を計算する、[モデル化]> [非線形回帰]、[モデル化]> [一般化線形モデル]
- 分位点 (最大、最小、中央値 (メディアン)、および他のパーセント点): [一変量の分布]
- 分位点 (正規分位点または QQ プロット): 正規標準の線と正規性からの偏差をプロットする、[一変量の分布]
- 分位点の箱ひげ図: [一変量の分布]
- 分割実験: 実験計画を生成し、[モデルのあてはめ]を使用して分析する
- 分割表分析: 「カテゴリカル分析」、「二元配置」を参照
- 分散成分の推定値: 変量効果モデルで 1 つ以上の効果を変量効果として指定(「混合モデル」も参照)、不釣り合い型計画を扱う、「モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗」
- 分散不均一性: グループ分散の違い、「二変量の関係: 一元配置」
- 分散分析 (一元配置): F 検定 (水準が 2 つだけの場合は t 検定)、「モデルのあてはめ: 一元配置」
- 分散分析 (一般): プロファイル、対比、カスタム検定、交差、枝分かれ、多項式、曲面効果と変量効果、最小 2 乗平均、多元配置 ANOVA の Student の t 検定および Tukey 検定、REML 推定の使用による混合モデル (割り当てられる共分散構造なし)、[モデルのあてはめ]
- 分散分析 (ノンパラメトリック): Wilcoxon、Median および Van der Waerden 検定、「モデルのあてはめ: 一元配置」
- 分析の再実行: すべてのプラットフォームで、スクリプトコマンドを使って分析やグラフを再実行できる。オプションでデータにスクリプトを保存して、後で再実行することも可能
- 分布のあてはめ: 正規、対数正規、Poisson、2 および 3 パラメータ Weibull、極値、ガンマ、ベータ、指数、およびノンパラメトリックな密度の平滑化など、連続量である一変量の分布曲線のあてはめとパラメータ推定、[一変量の分布]
- 分布のあてはめ: 分布のあてはめ、グラフ化、工程能力分析、分位点プロット (ベータ、正規、対数正規、2 & 3 パラメータ Weibull、極値、ガンマと指数、2 項、Poisson、p 値と検出力アニメーション、計算された許容区間) [一変量の分布]
- ペアごとの相関の行列: [多変量]> [多変量の相関]
- 平滑化: 「スプライン曲線」と「時系列診断のモデル化と予測」を参照
- 平滑曲線: 「密度の推定」を参照
- 平均: 信頼区間による推定
- 平均: 1 つの母集団、[一変量の分布]
- 平均誤差バー: 平均より 1 標準誤差上または下を示す平均オプション、標準偏差線のオプション、「二変量の関係: 一元配置」
- 平均の検定 (指定した値に対して): z 検定、t 検定、符号付順位検定、[一変量の分布]
- 平均のひし形: グループごとの平均と 95% 信頼区間を示す、「二変量の関係: 一元配置」
- 平均の標準誤差: 該当する場合に表示される
- ベータあてはめ (「分布のあてはめ」を参照)
- べき乗変換: 「Box-Cox 変換」を参照
- 偏回帰プロット (「てこ比プロット」を参照)
- 変換したデータのあてはめ: [その他のあてはめ]では、X 変数と Y 変数のいずれかまたは両方に対して、自然対数、平方根、平方、逆数、指数に変換してあてはめを行う「二変量の関係: 二変量」

- 偏相関、グループ:「モデルのあてはめ:MANOVA」
- 偏相関係数行列:ペアごと、[多変量]>[多変量の相関]
- 偏自己相関プロットと値:時系列のモデル化を診断、[モデル化]>[時系列分析]
- 変数の R(範囲)管理図:[管理図]
- 変数の S(標準偏差)管理図:品質管理、[管理図]
- 変数の平均管理図:品質管理、[管理図]
- 変動係数(CV):「モーメント」表、REML 法の結果、および EMS 法の結果の非表示列、[要約]コマンドを使用してデータテーブルで使用可能、[一変量の分布]
- 変動性図:グループ間の変動性を表示、[変動性図/ゲージチャート]
- 変動性分析:分散成分の推定値、Gage R&R レポートとプロット、[変動性図/ゲージチャート]
- 変数効果モデル:期待平均平方、分散成分の推定値、変数効果に関する検定、「混合モデル」、「REML」を参照、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 棒グラフ:[チャート]オプション
- 保険数理生命表テンプレートを含む(「テンプレート」を参照)
- ホワイトノイズの検定:時系列がホワイトノイズかどうかを検定する、スペクトル密度プロットで Fisher のカッパ()統計量および BKS 統計量を計算、[多変量]>[時系列分析]

ま行

- 満足度関数プロファイル:予測プロファイル、視覚化を容易にして異なる因子設定で応答を最適化、スクリーニング、応答曲面、およびの配合計画を最適化、[実験計画(DOE)]、[カスタム計画]および「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 満足度の最大化:最適なプロセス変数の設定を決定する満足度関数を設定、「満足度関数」と「予測プロファイル」を参照
- 右側打ち切りのある生存時間モデル:[生存時間分析もしくは信頼性分析]
- 密度の推定:ヒストグラムの分布のあてはめ、二変数散布図の等確率等高線、[一変量の分布]と「二変数の関係:二変量」
- 無作為に行を選択:JMP および SAS データテーブルで対応
- 名義ロジスティック回帰:[二変数の関係]または「モデルのあてはめ」
- メディアン検定:2 標本検定と Brown-Mood の k 標本、「二変数の関係:一元配置」
- モーメント、記述統計量:[グループ化]/[要約]コマンドにより作成されたデータテーブルの一変量の分布または列
- モザイク図:1 つの変数またはクロス集計の水準の割合に比例する積み重ね棒グラフ、[一変量の分布]および「二変数の関係:カテゴリカル」分析

や行

- 尤度比カイ 2 乗検定、2 元分割表分析、ロジスティックモデル、「二変数の関係:カテゴリカル」と「モデルのあてはめ:名義尺度」または「モデルのあてはめ:順序ロジスティック」
- 要因のスクリーニング:尺度化した推定値、正規プロット、Bayes プロット、パレート図、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- 予測:[モデル化]>[時系列分析]
- **予測区間([一変量の分布])**
- 予測値:ほとんどのモデルで予測式を使って、データテーブルの新しい列として保存できる
- 予測値の標準誤差:新しいデータテーブルの列として保存、「モデルのあてはめ:標準最小 2 乗」
- **予測の相対分散:カスタム計画で予測の正確さをみるテーブル、[実験計画(DOE)]**
- 予測分散プロファイル:独立した因子の組み合わせごとに予測の相対分散を表示する、[実験計画(DOE)]>[カスタム計画]

ら行

- ラテン超方格法:Space Filling 計画を作成する方法、[実験計画(DOE)]、[Space Filling 計画]
- ラベル:1 つまたは複数の列の値を持つプロットのデータ点を識別する
- **ランチャート:[管理図]**
- リアルタイムデータを収集するための機器データソース
- 累積分布関数(CDF)プロット、分布のあてはめに対応、[一変量の分布]
- 累積ロジスティック確率プロット:ロジスティック回帰、「二変数の関係:ロジスティック」
- 累積和管理図:V マスクによる Cusum(累積和)管理図、[管理図]
- レイアウトコマンド:JMP の分析結果を取り込む[編集]メニューコマンド、レイアウト結果は編集可能
- 列の分割:JMP テーブルのレイアウトを再構成し、ID 変数の値に基づいて 1 つまたは複数の列を複数の列に分割する
- レポートテーブルのカスタマイズ:列を表示または非表示にする、列の周囲に境界を設定する、いずれかの列でソートする、レポートを JMP データテーブルに変換する
- 連結:JMP データテーブルを縦に追加する
- ログランク検定:[生存時間分析もしくは信頼性分析]>[生存時間分析/信頼性分析]
- ロジスティック回帰:カイ 2 乗統計量の分析、確率スコアの保存、Wald 検定と尤度比カイ 2 乗、「二変数の関係:ロジスティック」および「モデルのあてはめ:名義尺度」または「モデルのあてはめ:順序ロジスティック」
- ロジスティック回帰の確率スコア:新しいデータテーブル列として保存、「二変数の関係:ロジスティック」と「モデルのあてはめ:名義ロジスティック」または「モデルのあてはめ:順序ロジスティック」

- ロジスティック分布モデルのあてはめ:適切な損失関数による非線形回帰(「損失関数テンプレート」も参照)
- ロジットモデル:「ロジスティック回帰」を参照
- わ行
- 歪度:[一変量の分布]
- 割合、パーセント:分割表の度数の割合、「二変量の関係:カテゴリカル」

JMP®のヘルプ機能

オンラインヘルプ	あり
トピックのヘルプ	あり
広範囲なヘルプ(JMP マニュアルに關係するヘルプ説明)	あり
ヘルプメニュー	あり
コンテキストヘルプ ヘルプツールを使用して JMP のレポートウィンドウの任意の場所をクリックすると表示される	あり
統計ナビゲーションガイド	あり
索引付きヘルプ マニュアルや、定義と例を含む JMP スターターにリンクするオンラインヘルプの五十音順の索引	あり

グラフ出力の概要

- AR係数のグラフ:AR係数のヒストグラム、時系列モデルを診断
- Box-Cox変換プロット
- CUSUM累積和管理図のVマスク
- Mahalanobisの距離の外れ値プロット
- ROC(受診者動作特性)曲線:二項ロジスティック回帰、真陽性対偽陽性のプロット
- XBar、C、U、P管理図のOC(検査特性)曲線
- XBar(平均)、範囲、標準偏差の統計管理図
- 色(65色のパレット)
- 因子に対する1つまたは複数の応答のプロファイルプロット
- 円グラフ
- 折れ線プロット
- 回帰の残差プロット:直線のあてはめ、多項式のあてはめ、変換後のあてはめ(二変量の関係)
- 回帰の残差プロット:残差と予測値のプロット、行ごとの残差のプロット(モデルのあてはめ)
- 「重ね合わせプロット」プラットフォーム:折れ線と棒、左右のY軸、xの関数としてのyをプロット
- カラーマップ
- 幹葉図
- 管理図(CUSUM(累積和)管理図)
- 管理図(移動平均:UWMA、EWMA)
- 管理図(管理図:平均、範囲、標準偏差、個々の測定値)
- 管理図(計数値データの管理図 (P、NP、C、U))
- 管理図(Levey-Jennings法)
- 曲線のあてはめ
- 曲面プロット:3次元の曲面の表示、回転、ライト、メッシュ、色の選択ができる「グラフ」メニューのプラットフォーム
- クラスターの距離グラフ(階層型クラスター分析)
- クラスターの色分け(k-means法で自動的に適用)
- 原因と結果のダイヤグラム
- 検出力プロット
- 交互作用プロット:すべての2因子間交互作用の散布行列プロット
- 再生モデルによる分析のイベントプロット
- 再生モデルによる分析のMCF(平均累計関数)プロット
- 三角図
- 3次元回転プロット
- 3次元の散布図と主成分分析
- 散布図
- 軸のカスタマイズ:目盛り、グリッド、XとYの表示形式およびXとYの参照線

- 時系列プロット
- 自己相関プロット: ラグによる自己相関のヒストグラム、ARIMAモデルの診断
- ジャックナイフ法による距離プロット
- 重回帰分析のてこ比プロット
- 重心プロット
- 樹形図: 階層型クラスター分析でクラスターごとに色分け
- 垂線プロット
- スクリーニング計画と重回帰分析のBayesプロット
- スクリーニング計画のキューブプロット
- スクリーニング計画の効果の大きさを表すパレート図
- スクリプト言語: JSLを使って、独自のグラフやアニメーションのスクリプトを作成できる
- スコアグラフ (PLS)
- スプライン曲線: 平滑化スプラインを二変数データにあてはめて予測値を保存
- スペクトル分析のピリオドグラム
- スペクトル密度プロット: スペクトル密度対期間、スペクトル密度対周波数
- 正規曲線
- 正規分位点プロット
- 正準プロット
- 生存曲線プロット / 故障曲線プロット (Kaplan Meier)、Weibull、対数正規、および指数プロット
- 生存曲線プロット: あてはめられた分布の、時間に対する生存率、密度、およびハザードのプロット
- 説明変数のプロファイルプロット
- セルプロット
- 相関プロット (2変数ごとの散布図行列と確立楕円)
- 相関プロット (ペアごとの相関のヒストグラム)
- 相関を示す確率楕円
- 対応のあるデータのt検定プロット
- 対応のある変数を分析するためのパラレルプロット
- 対応分析のプロット
- 対数正規プロット
- タイトル、脚注、および注釈ツールでカスタマイズしたグラフ
- ダイアグラム
- 多項式回帰による曲線のあてはめ
- 多変数の外れ値プロット (Mahalanobisの距離)
- 直線性グラフにより、変動性図でバイアスの直線性を要約する
- 直線ツール: レポート、ジャーナル、レイアウトに線、楕円、四角形、多角形を描画するためのツール
- 重ね合わせた折れ線プロット
- **ツリーマップ**
- 等高線図 (一般)
- 等高線図: 二変数密度の推定値が等しい領域を表示する
- 等高線プロファイルプロット: 複数の応答のある実験計画に対応する許容領域を重ね合わせた等高線
- 特性要因図 (「特性要因図」プラットフォーム)
- パーティショングラフ
- 配合計画のプロファイルプロット
- 配合モデルの等高線図
- バイプロット
- 箱ひげ図 (外れ値)
- 箱ひげ図 (分位点)
- パラレルプロット: 各行を、直線のセグメントをつなげた1本の線として表す [グラフ] メニューのコマンド
- バリオグラム: k個のラグの分散をラグ1の分散と比較するヒストグラム
- パレート図
- パレート図 (単一および比較)
- パレート図: [プロットのグループ化解除] オプションでは、パレート図のグループを個別のプロットに分割できる
- ヒートマップ (セルプロット)
- 比較円
- ヒストグラム
- ヒストグラム軸: 「二変数の関係: 二変数」のオプション
- 非正規分布 (対数、2、3パラメータWeibull、極値、ガンマ、ベータ、指数) の分位点プロット
- 標準偏差図 (変動性図プラットフォーム)
- フィッシュボーンチャート (「特性要因図」プラットフォーム)
- 複数の応答変数の満足度プロファイルプロット
- 分割表のモザイク図
- 分布のあてはめ: 連続量の分布と正規分位点プロット

- ペアごとの相関のヒストグラム
- 平滑曲線:カーネルスライダを使用したヒストグラムの1次元の平滑化
- 平均誤差バー
- 平均のひし形
- 偏自己相関プロット:偏自己相関ラグのヒストグラムで、ARIMA時系列モデルを診断する
- 変動性図(Gage R&Rプロット)
- 変動性図のバイアスレポートのグラフ
- 棒グラフ
- 棒グラフ:平均および標準誤差バーの表示が可能
- マーカー(16種類のマーカーのパレット)
- メッシュプロット:ノンパラメトリック密度推定のための二変量確立密度および応答曲面のための3次元プロット
- 要因のスクリーニングと重回帰分析のための正規プロット
- 予測グラフ(「PLS」プラットフォーム)
- 予測値と実測値の回帰プロット
- 予測プロファイル
- 予測分散プロファイルプロット(実験計画)
- ランチャート
- 累積確立(CDF)プロット
- 累積ロジスティック確率プロット
- レイアウト:グラフ編集機能(「グラフのカスタマイズ」を参照)
- ロジスティック確率プロット

ユーザーインターフェース

- JMP 内から Web ページを参照できます (Windows のみ)。
- 計算式: オプションのパラメータを挿入できるときは、式に脱字記号のようなマークが表示されます。式のイメージは列情報ダイアログに表示されます。
- レイアウトとジャーナル:ほとんどの編集操作で元に戻す機能を使用できます。また、ジャーナル内から分析を再実行できます。
- メニューのカスタマイズ:Windows と Linux では、[編集]メニューの下に[カスタマイズ]というサブメニューがあります。このサブメニューを選ぶと、ドラッグアンドドロップに対応したメニューとツールバーのエディタが表示されます。
- 初期設定パス:Windows では、環境設定ファイル(JMP.pfs)を保存するディレクトリを、任意に指定できます。
- **SVG:JMP では、ジャーナルと画像ファイルを SVG(Scalable Vector Graphics)として保存できます。**
- マウスポインタはブラシツールと同様に機能します。ドラッグして複数のポイントを選択したり、Shift キーを押しながらドラッグして選択を拡張したり、Ctrl キーを押しながらドラッグして選択したポイントを除外したりできます。
- **Windows では、デフォルトの「保存」場所を指定する設定項目があります。**

その他の改良

- **[開いているファイルをすべて追加]をジャーナルの右クリックメニューに配置しました。このメニューを選択すると、アウトラインノードおよび開いているすべてのファイルやスクリプトに関するリンクが生成されます。**
- Linux オペレーティングシステム:JMP は Linux 環境下で完全に動作します。
- 軸ラベルのテキストを、複数の行に自動的に改行するオプションがあります。
- JMP レイアウトまたはジャーナルレポートにドラッグまたはコピーしたイメージのサイズを変更できます(イメージを元のサイズに戻すには、Alt キーを押しながらクリックします)。
- 統計レポートの列を移動するには、手のひらツールを使用して、左右にドラッグします。
- 任意のプロットでコンテキストクリック(右クリック)して表示される[マーカー描画モード]>[高速]オプションを使用すると、多数のマーカーを描画するときにプロットをより速く表示できます。ポイントの数が、[高速描画する点の閾値]で設定した値より大きいときにプロットは高速モードを使用するように設定されます。初期設定値は 10,000 です。

内部の最適化

- 「クラスター分析」プラットフォームでは、数千行の処理が高速にできます。
- データテーブルの行間での計算(サブスクリプトで行番号が指定された変数や Lag 関数を使用)が、すばやく実行されるように改善されました。
- ヘルプシステムでは、イメージサイズを減らし、便利なナビゲーション構造を採用しました。

- JSL Try 関数でのエラーハンドリングの性能が向上しました。
- ODBC では、Excel ファイルなど大きなデータベーステーブルの読み込み処理が高速になりました。
- **ODBC は以下をサポートしています。**
 - Windows と Linux での Unicode サポート
 - 対話形式の WHERE 式エディタ

計算式エディタ

- 確率: Beta (Density, Distribution, および Quantile)、Chi-Square (Density, Distribution および Quantile)、F (Density, Distribution および Quantile)、Gamma (Density, Distribution および Quantile)、Normal (Density, Distribution および Quantile)、t (Density, Distribution および Quantile)、Weibull (Density, Distribution および Quantile)、Binomial (Distribution, Probability)、NegBinomial (Distribution, Probability)、Hypergeometric (Distribution, Probability)、Poisson (Distribution, Probability)、Tukey HSD Quantile、F Power、F Sample Size
- 関数ブラウザ: (計算式エディタの関数がトピック別にグループ分けされています)
- キーボードの演算子: 加算、減算、乗算、除算、y 乗根、y 累乗、符号変更、挿入、削除、引数の交換、ローカル変数を作成する「t=」、および式演算子の削除など、標準の算術演算子を実行します。
- 行: Lag, Dif, Subscript, Row (行番号)、および NRow
- 行の属性: Row State, As Row State, Combine States, Excluded State, Hidden State, Labeled State, Color State, Marker State, Selected State, Hue State, Shade State, Excluded, Hidden, Labeled, Color Of, Marker Of, Selected
- 統計 - 列全体の記述統計量: Col Mean, Col Std Dev, Col Number, Col NMissing, Col Sum, Col Minimum, Col Maximum, Col Quantile, Col Standardize - 行の記述統計量: Mean, Std Dev, Number, Sum, Quantile, Summation, Product, Minimum, Maximum, N Missing
- 計算式エレメントブラウザ: 定数 (pi や e などの一般的な定数)、テーブルの列 (JMP テーブルの変数)、テーブル変数、パラメータ、および式に含めるローカル変数から選択します。他の定数はキーボードから入力します。
- 三角関数: Sine, Cosine, Tangent, ArcSine, ArcCosine, ArcTangent, SinH, CosH, TanH, ArcSinH, ArcCosH, ArcTanH
- 条件付: If, Match, Choose, And, Or, Not, Interpolate, Step, For, While
- 数値: Abs, Modulo, Ceiling, Floor, Round, Count
- 超越関数: exp, Log, Log10, Squish $1/(1 + \exp(-x))$ の計算、Root, Factorial, NchooseK, Beta, Gamma, Lgamma, SheffeCubic
- 比較: あらゆるタイプの数値および文字比較
- 日付時間: In Minutes, In Hours, In Days, In Weeks, In Years, Date DMY, Date MDY, Today, Day, Month, Year, Day of Week, Day of Year, Informat, Week of Year, Abbrev Date, Long Date, Short Date, Format, MDYHMS
- 文字: Char, Concat, Contains, Munger, Lowercase, Uppercase, Length, Num, Substr, Trim, Word, Item, Hex, Repeat
- 乱数: Random Uniform, Random Normal, Random Exp, Random Gamma, Random Beta, Random Cauchy, Random Triangular, Random Integer, Random Binomial, Random Negative Binomial, Random Geometric, Random Poisson, Random Reset, Random Seed, Random SeededUniform, Random SeededNormal, Col Shuffle
- 割り当て: 割り当て関数は、その場所ですべて実行されます。演算 (演算子の右側) によって戻された結果は、演算子の左側の引数に格納され、現在の値と置き換わります。割り当てステートメントは、多くの場合、JSL スクリプトを作るために他のコマンドとともに使用されます。関数には、割り当て =, 加算 +=, 減算 -=, 乗算 *=, 除算 /=, インクリメント ++, デクリメント -- があります。

乱数関数

- 乱数はMersenne-Twister手法を使って生成されます。この手法の周期長は $2^{19937}-1$ (以前の乱数生成では $2^{31}-1$) です。新しい乱数生成は、Marsaglia (1996) で言及されているすべてのDIEHARDテストに合格しています。
- 古くからあるRandomSeededUniform とRandomSeededNormal関数は、RandomSeed関数の呼び出しと組み合わせて引き続き使用可能です。Random UniformとRandom Normal関数を使用するバージョン3のデータテーブルは、新しい名前の関数に変換されます。

OLEオートメーション

- **JMP6 のオートメーション機能に、新しい DOE Custom Design クラスを含む何十もの新しいメソッドが追加されました。**

JMP®データテーブルの機能

- 常にスプレッドシート形式でデータを表示し、複数のテーブルを開くことができます。
- 「列」パネルと「列情報」ダイアログボックス: 列属性とプロパティを使用してスプレッドシートに情報の格納、尺度(名義、順序、連続)の割り当て、役割の割り当て、計算式エディタを使用した計算列の作成、リストや範囲チェックによる値の制限、管理図や実験計画(DOE)で使用する特別なプロパティの割り当て、多数ある日付/時間の表示形式の設定などを行えます。
- データ加工操作: 分析に必要なデータを用意するためのデータ加工機能です。連結(追加)、結合(2つのJMPテーブルのリレーショナル結合および直積結合)、更新オプションによる値の更新、並べ替え、サブセット(元のテーブルへのリンクあり/なし)、無作為標本の抽出、オプションのBy変数による転置、列の分割、列の積み重ね(列全体または値の交互配置)、新しいテーブルを作成せずに[更新]コマンドによる既存の値の更新、などの機能があります。
- 実験計画: スクリーニング計画、応答局面計画、混合水準計画、配合計画、タグチ配列、完全実施要因計画、カスタム計画、拡張計画を作成できます。
- 新しい[計算式の評価]オプションにより、列内の定義済み計算式を評価または評価しないようにすることができます。
- セルの値を対象にした[検索]と[置換]コマンドがあります。
- インポートできるテキストファイルの読み込み制限が、10,000列および128K/1行になりました。
- 複数のデータテーブルを開いて分析、データ管理することができます。
- JMPテーブル: データテーブルの一部をドラッグして別のテーブルにドロップすることができます。テーブルの左側にあるテーブル、列、行のパネルは、属性の表示と簡便な操作性により、データをより効率的に管理できます。
- 行の制限はありません。列は(2¹⁵)-1列に制限されています。JMPテーブルはメモリ量に依存するため、実際の制限要因はRAMメモリです。
- [行の編集]を選択すると、データテーブルの列を1度に1行ずつ参照できるウィンドウが表示されます。
- 「行」パネル: 選択、非表示、除外、ラベル付けされている行の数が表示されます。行のプロパティを使用して、選択した行に対して色を付ける(65色のカラーパレットから選択)、マークを付ける(16種類のマーカーから選択)、非表示にする、除外する、またはラベルを付けることができます。また、行を追加、削除、または選択できます。
- [計算式の保存]と[自動評価しない]の各コマンドがJMPに追加されました。
- 単精度整数オプションは、列のフィールド幅を「n」バイトの記憶域として指定でき、記憶域を節約します。ここで「n」は1以上の正の整数です。
- [要約]コマンドのダイアログでは、要約統計量列の名前を指定することができます。[要約]コマンドでは、全体の統計量を含めることができます。
- 「テーブル」パネル: テーブル変数は、ソース、時間、場所、技術者や研究者の名前またはIDなど、データに関する重要な情報を保存できます。また、テーブルプロパティは、テーブルに関連するスクリプトを保存できます。[スクリプトの実行]コマンドを選ぶと、分析をすばやく再現できます。

JMP®ツール

ツールには、グラフだけに適用できるものと、それ以外のすべてに適用できるものの2種類があります。適切なツールを使用して、JMPテーブルやJMP分析ウィンドウで対話的に処理を進めてください。

グラフィックツール

- ブラシツール: グラフをクリックすると、四角の選択エリアが表示されます。ドラッグして選択のサイズを変更します。このツールを使用して、四角に囲まれた領域内の点を選択します。
- 十字ツール: 移動可能な座標表示機能です。たとえば、あてはめた直線や曲線上で十字ツールを使用すると、予測値に対する応答値を特定できます。マウスをクリックすると、十字ツールが縦軸と横軸に交差している箇所の値が表示され、マウスを動かすと同時に移動します。三角図では、3本の線から成るカーソルと値が表示されます。
- 描画ツール: JMPの従来の注釈ツールに加え、JMP 6には、線、楕円、四角形、および多角形をを描画するためのツールがあります。これらのグラフィックをレポート、ジャーナル、およびレイアウトに表示することができます。
- 手のひらツール: プロットやチャート内で直接操作したり、つかむときに使用します。Y値の分布のヒストグラムでは、手のひらツールを使用してヒストグラムのバーの数を変更したり、軸上のバーの境界の位置をずらしたりすることができます。また、回転プロットでは、手のひらツールにより回転を微調整することができます。マウスのボタンをクリックしたまま手のひらツールを移動させると、軸が手のひらツールの動きに従って回転します。散布図行列では、対角線上で列名のボックスを斜めにドラッグすることで、列の位置が変更できます。CUSUM(累積和)管理図では、Vマスの原点の位置を変更できます。X-Yプロットの場合、手のひらツールを使用して軸をスクロールすることができます。
- なげなわツール: プロット内に変則的に存在する点を囲み、簡単に選択できます。Shiftキーを押しながらなげなわツールを使用すると、選択を複数の場所に拡張できます。
- **グラフを右クリックすると[線の幅のスケール]というメニューが表示されます([マーカー描画モード]の下)。これにより、グラフ上のほとんどすべての線の幅を倍数で指定できます。**
- 虫めがねツール: プロットの任意の領域を拡大または縮小表示できます。また、ドラッグして三角図内の小さな三角形領域を拡大したり、階層クラスタ樹形図を拡大表示できます。

あらゆる目的に対応するツール

- 注釈(「A」ツール): JMP ウィンドウ内でクリックするとテキストボックスが作成されます。ここに注釈を入力して、強調表示した点、曲線、値などの任意の位置まで線を引くことができます。
- 矢印ツール: 分析ウィンドウでは矢印ツールを使って、レポートの表示や非表示、ポップアップメニューの選択、プロット内の点を選択および強調表示、ヒストグラムの強調表示、ダイアログの項目設定を行います。スプレッドシートでは、矢印ツールで各列の一番上にあるポップアップメニューの選択、行や列やテキストを選択します。
- ツールバーのカスタマイズ: JMP のすべてのコマンドをツールバーに表示することができます。任意のツールバーを表示または非表示にしたり、ツールバーをカスタマイズしたり、独自のツールバーを作成したりできます。8つのボタンを持つユーザー作成ツールバーを最大で4つ持つことができます。
- 描画ツール: 直線、楕円、四角形、および多角形を描くためのツールです。これらのグラフィックをレポート、ジャーナル、およびレイアウトに表示することができます。
- 通常のマウス機能のサポートに加え、JMPはポップアップメニューを表示させます。マウスの右ボタンをクリック (MacintoshではCtrlキーを押しながらクリック) すると、クリックした場所に適したコマンドのポップアップメニューが表示されます。
- ヘルプツール: ヘルプにアクセスできます。このツールを選択して、グラフ、プロット、またはテーブルをクリックすると、クリックしたオブジェクトのヘルプが表示されます。
- 選択ツール: 白い十字のカーソルで表示され、レポートの階層に合わせて領域を選択できます。白い十字のカーソルは画像を作成するだけでなく、表示データの階層情報を持ったジャーナルも作成します。つまり、選択箇所は表示された要素に対応します。
- スクロールツール: クリックしてレポートをつかみ、ドラッグしてスクロールすることができます。これは単純なツールでありながら、微調整に役立ちます。スクロールには、慣性と摩擦があります。このため、表面を押してボタンを放した後、速度を弱めながらスクロールが続きます。

質問の連絡先

電話番号: 03-3533-3887 JMP ジャパン事業部に問い合わせるか、質問を E メールで送信してください。 jpnimpsupport@jmp.com
また、弊社の Web サイト、 www.jmp.com/japan を参照してください。



JMP Headquarters
SAS InStitute Inc.
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513
USA
Tel: +1 919.677.8000
Fax: +1 919.677.4444
jmpSales@jmp.com
www.jmp.com

JMP Europe
SAS Institute
Henley Road
Medmenham
Marlow
SL7 2EB
United Kingdom
Tel: +44 (0)1628 486 933
Fax: +44 (0)1628 483
203
jmpSaleSeur@jmp.com
www.jmp.com

JMP ジャパン
SAS Institute Japan 株式会社
〒104-0054
東京都中央区
勝どき 1-13-1
イヌイビル・カチドキ
Tel: 03-3533-3887
Fax: 03-3533-1600
jmpjapan@jmp.com
www.jmp.com/japan

JMP China
SAS China
25/F POS Plaza
1600 Century Avenue
Pudong New District
Shanghai 200122
PRC
Tel: + 86 21 6876 5353
Fax: + 86 21 6876 9010
jmpsalesprc@jmp.com
www.jmp.com

SAS, JMP, およびその他の SAS InStitute Inc. 製品またはサービスの名前はすべて、アメリカ合衆国およびその他のすべての国における SAS InStitute Inc. の登録商標または商標です。
©は米国の登録商標を示します。Six Sigma は、Motorola, Inc. の登録商標です。他のブランド名および製品名は、所有各社の登録商標または商標です。Copyright © 2005 SAS
Institute Inc. All Rights Reserved.